

北欧におけるギルド組織の特質と工芸の発展
—社会組織としてのギルドの位置付けと日本の工芸との関わり—
Guild Organizations and the Development of Crafts in Northern Europe
The Position of Guilds as Social Institutions and Their Relationship to Japanese Craft Traditions

○芦部琉璃¹, 田所辰之助²

*Shuri Ashibe¹, Shinnosuke Tadokoro²

Abstract : Scandinavian design is internationally renowned, yet the role of traditional craftsmanship and guild systems in its development is often overlooked. This study examines how guild organizations in Sweden, Finland, and Denmark contributed to the preservation and advancement of craft traditions. By analyzing historical and socio-economic contexts, the research highlights the unique path Scandinavian countries took toward becoming craft-centered societies. It also explores early craft education and exhibitions, such as the Swedish Hemslojd movement and Denmark's Cabinetmakers' Guild, emphasizing how collaboration between designers and craftsmen helped shape the region's design identity and maintain high standards of production.

1. はじめに

北欧デザインは近代における一つのデザイン・スタイルとして確立し、世界で広く知られている。日本でも北欧デザインの家具や食器が好まれ、生活の中に取り入れられている。しかしその北欧デザインの根底にある高い技術力やその継承について触れられることは少ない。手工芸として発展し北欧デザインとして確立するまでにギルド組織の存在は大きいと考え、その特質を分析する。

2. 研究目的

周辺国での芸術運動などが北欧に流れ込むが、北欧独自のデザインが生まれたのにギルド組織の影響は大きいと考え、ギルド組織設立の社会的背景を露呈する。ギルド組織と国の生産や社会における工芸の位置付けを調査、解明することが本研究の目的である。北欧において現在まで工芸が重要視されている社会的背景と周辺国や日本とは異なった工芸国になった経緯を考察する。研究対象である北欧はスウェーデン、フィンランド、デンマークとする。

3. 研究方法

北欧で手工芸が生産の基盤となった社会的背景や北欧、日本、ヨーロッパのギルド組織や職人組織の成立について各国の社会史などを参照し、比較することで周辺国や日本とは異なり北欧が工芸国となった背景を解明する。また日本の民藝運動との関係や影響を雑誌や展覧会の図録に掲載されている対談から考察する。

4. 先行研究の検証

北欧デザインの成立に北欧の風土性や歴史的背景が関係していることや北欧デザインが注目され始めた1900年以降の流れについては多く触れられているが、技術の育成や継承の役割を果たしたギルド組織については、存在があった程度しか触れられていない。

5. 北欧デザインの成り立ちとギルド組織の発足

8世紀から11世紀にかけて、スカンジナビア半島を拠点としたヴァイキングは、冰山や荒れた海を交易や移動のため船首と船尾を前後対称にし、外板材を重ねて強度を高めるなど、実用性と構造美を兼ね備えた高度な造船技術が見られる。こうした機能性と精密な手仕事は、後の北欧における手工芸やデザイン文化の基盤となった。8世紀後半には東へと活動範囲を広げ、河川流域や湖の近くに木造建築を建て定住し、交易と手工芸を主に生活していた背景がある。

スウェーデンでは、1845年に世界で最も古いデザイン組織であるスウェーデン工芸協会がマンデルグレーンによって設立される。1846年のギルド制の廃止によって、スウェーデンの伝統的工芸が衰退することを予測し、また外国の劣悪な大量生産された工場製品が流入することを恐れ、工芸高校とともに設立した。またスウェーデンと隣接しているフィンランドも1875年とかなり早い時期にクラフツ・アンド・デザイン協会を設立している。

6. 北欧の生産とギルド組織

6-1. スウェーデンの手工芸とギルド組織

スウェーデンにおけるヘムスロイド（家庭の手工芸）は、現在では地域の手工芸協会の保護下にある工芸品の生産と結びついているが、本来は家庭で用いるあらゆる製品を含んでいた。産業化以降、消費財は工場生産が主流となっていたが、1850年頃までは衣服や道具など生活必需品の多くが家庭で作られ、農業を補う家内生産や副業としての性格も持っていた。また、家庭内の手工芸だけでなく、職人や工芸産業の存在も大きく、職人による工芸品や工芸産業でもあった。12世紀以降、工芸品を制作していた職人たちは、自分の生業を発展させようとギルド組織の下に集

結した。加盟するには一定以上の訓練と技量が要求され、親方の元で修行をし、一人前の職人として働くことができた。のちにこのギルド制は1840年代と1860年代に施行された法令により廃止に追い込まれるが、地方ではこの法令が実行されず職人という職業は残された。中世の終わり頃から、都市の公民や職人、商人は地方の特定の市で物の売買が許可されていたが、農民の取引や工芸品生産は禁止された。地方はいくつかの商業地区単位に分けられ、市場となる中心地区に販売する工芸品を持っていく必要があった。このように職人や農民に作られた手工芸品は、売り手と買い手が別々の土地から集まる祭日や教会に行く日に売買が行われた。教会の広場で行われていた日曜市にも影響を与え、19世紀になるまで残っていたと言われている。ここでの売買による収入は農民たちにとっては生計に欠かせない副収入であった。当時農業だけで生活できる地域は限られていて、森林地帯の農家にとって手工芸商品の生産は重要であった。森林地帯であるため、木材が豊富でそれにより様々な木工芸が発達した。このように木工品はスウェーデンの森林地帯で育まれ、遠くでの販売に不向きであった木工品は近くの街や隣接している森のない農村に売られた。このように、産業にとって経済的な基盤となる気候とその地方の資源である地理学的な要因は地域性の形成に影響を与え、資源の獲得とそれらの応用は直接その地方の文化形態に影響を与える。

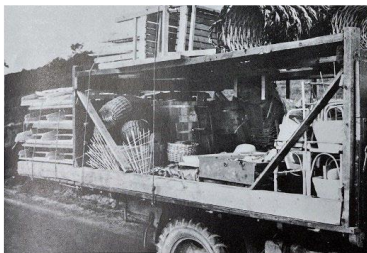


Figure 1. Transporting wooden goods to nearby villages

6-2. デンマークの家具職人組合とその展覧会

キャビネットメーカーズギルドというコペンハーゲン家具職人組合の存在がデンマークの家具に大きな影響を与えたと考えられる。1554年に設立され、ドイツ発祥の職業技能認定制度であるマイスター制度によって長年受け継がれてきた高度なクラフトマンシップによる家具を1927年から1966年までの40年間行われ続けたキャビネットメーカーズギルド展で発表されていた。この展覧会が行われた背景には、第一次世界大戦後、隣国のドイツの通貨の価値が下落し、対してデンマークの通貨の価値が高騰したことがある。それ

により、安く手に入りやすいドイツ製品が大量に流入し、国内家具産業の衰退を恐れ、消費者に自国の高品質家具を知る機会を作り、安い輸入家具に流れていくのを防ぐ目的で開催された。初めは各キャビネットメーカーの作品の発表の場として位置づけられていたが、1933年にデザインコンペティション制度が導入され、デザイナーと職人の協働での制作活動が活発になり、この展覧会に促され、長期にわたって協同制作を続けたデザイナーと職人が多くいる。その一人であるフィン・ユールはニールス・ヴォッダーとの20年以上協同制作と続けた。家具職人だけでなく、マイスターの資格を持っていたデザイナーがいたこともあり、デザイナーと職人が対等な関係にあったことで、デザイナーが理想とした形を再現させることが可能であった。またデザイナーの理想を形にできた家具職人の技術の高さが評価されるようになった。このギルド組織の活動は、家具職人や技術者の仕事を確立させ、北欧デザインにおいて欠かせない職人の存在を守ったと言えるだろう。



Figure 2. The Chieftain Chair, a collaborative work by Finn Juhl and cabinetmaker Niels Voder

7. 今後の展望

国や地域によって主となっていた手工芸の種類の違いやギルド組織設立の社会的背景について調査する必要がある。また北欧周辺国であるドイツ工作連盟やイギリスのアーツ・アンド・クラフツ運動、北欧との共通点が多いと言われる日本の民藝運動との関係や影響について調査し、それぞれの組織の社会的背景と果たした役割をまとめる。

8. 参考文献

- [1] アンナ・マヤ・レーニン、山梨幹子訳：スウェーデンの伝統手工芸、三一書房、1982年 [2] 長久智子：1950年代における北欧モダニズムと民藝運動、産業工芸試験所の思想的交流—スウェーデン、グスタフスベリ製陶所のヴィルヘルム・コーゲ、ステイグ・リンドベリとフィンランド、アラビア製陶所のカイ・フランクの来日を視点として—、デザイン理論、第65巻、pp.35-76、2015年 [3] Michael Sheridan 著 Greta Jalk 編：Dansk møbelkunst gennem 40 aar : Københavns Snedkerlaugs Møbeludstillinger 1927-1966 40 years of Danish furniture design : the Copenhagen Cabinet-maker's Guild exhibitions 1927-1966(v. 1: 1927-1936 v. 2: 1937-1946 v.3: 1947-1956 v. 4: 1957-1966)、Lindhardt og Ringhof、2017年